

### 【今週の注目疾患】

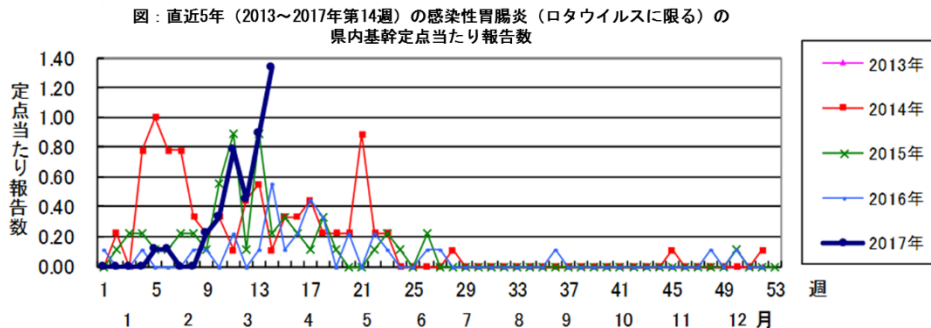
#### 【ロタウイルスによる感染性胃腸炎】

ロタウイルスは、乳幼児の急性胃腸炎の主要な原因ウイルスとして知られ、ロタウイルスによる感染性胃腸炎は、通常12月ないしは年明け頃から発生を認め始め、春先に発生のピークを示す。ロタウイルスによる胃腸炎の主な症状は、水のような下痢、嘔吐、腹痛や発熱である。日本ではロタウイルス感染による死亡はまれであるが、それでも重度の脱水を引き起こし、入院を要することがあり、また胃腸炎以外の疾患として急性脳症や多臓器不全を引き起こすことがある。ロタウイルスは環境中でも安定であり、また感染力が非常に強く、ウイルスの感染予防は極めて難しい。糞口感染が主な感染経路であるため、おむつの適切処理、手洗い、汚染衣類の消毒などが感染拡大防止の基本となる。ロタウイルスについては初感染時の症状が最も重症化しやすいことが知られており、現在は乳児を対象としたロタウイルスワクチンが任意で接種可能となっている。

県内基幹定点医療機関から報告されるロタウイルスによる感染性胃腸炎について、2017年第14週は定点当たり1.33(人)であり、直近5週で最も多い(図)。2017年第1～14週に基幹定点から報告された全38例の患者の年齢中央値は2歳(範囲:0～10歳)であり、年齢群別では1歳が10例と最も多く、次いで0歳と2歳がそれぞれ5例であった(表)。性別は男女それぞれ19例であった。

参考・引用 国立感染症研究所 ロタウイルス感染性胃腸炎とは。

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/3377-rota-intro.html>



表：2017年第1～14週に県内基幹定点から報告された感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の年齢階層別報告数:n=38

年齢もしくは月齢	報告数
～6か月	1
6～12か月	4
1歳	10
2歳	5
3歳	3
4歳	3
5歳	4
6歳	3
7歳	2
8歳	1
9歳	1
10歳	1